

Broaden your horizons ⑦〇 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

今年は巳年、そう、ヘビ年です。医療とヘビは、とても縁が深いことを皆さんはご存じでしょうか？由来は、ギリシャ神話にまでさかのぼります。

太陽神アポロンの息子アスクレピオスは、ケンタウロスの賢者ケイロンから医术を学びます。彼は、死人をも生き返らせてしまうほどの名医となりましたが、その結果、冥界の神ハーデースの怒りを買ひ、ハーデースの要求を聞き入れたおじいちゃんに当たる全能の神ゼウスによって命を絶たれます。彼の死後、父アポロンによって、名誉を回復し、医神として崇められるようになります。「へびつかい座」になった彼は、私たちが提供する医療を見守るように、今でも夜空に輝いています。彼は蛇毒を薬に使うため、片手に持った杖にいつもヘビを巻きつけていました。それが「アスクレピオスの杖(蛇杖)」と呼ばれ、医療のシンボルマークとして世界的に用いられるようになったのです。世界中の医師会や世界各国の救急車にこのマークが描かれており、WHOの旗にもあしらわれています。

この医神アスクレピオスの娘ヒュギエアは、健康と衛生を司る女神です。父と同様、ヘビを従え、片手に薬や水を入れた杯を携えていたので、この「ヒュギエアの杯」が薬学のシンボルとして用いられるようになります。ヒュギエアが描かれた有名な絵(画像を参照してください)があります。グスタフ・クリムトが描いたものです。この絵にもヒュギエアの手へヘビが巻き付いています。ヘビは、足を持たず、長い身体と強力な毒、そして餌を食べなくても生き長らえる生命力を持つことから、古来より「神の使い」として崇められてきました。日本でも白ヘビは幸運の象徴とされています。そして、脱皮を繰り返すことから、ヘビは「死と再生」を想起させます。例えば、ヘビの抜け殻を財布に入れたり、ヘビ柄の財布に変えたり、「お金が貯まる」と言い伝えられているのも、金運の復活や再生を願うからです。

そうです、薬学と縁の深い巳年の今年、薬学が脱皮しなければならない年です。6年制の卒業生が冬眠から目覚め、活動を開始しましたが、まだまだ薬学教育には課題が山積みです。また、薬剤師の社会貢献についても、一皮むけたいところです。私も一皮(皮ではなく、贅肉がむけてほしいところですが……笑)むけて、さらに成長していきたいと思えます!

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子